

グランシップ開館3周年記念対談

山本肇

×

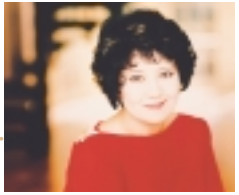
日比野克彦

「この3年。そして、これから」

S P E C I A L



- グランシップ・オブ・フランク記念イベント
アニメーションワークス
- トレインフェスタ



- グランシップ・オブ・フランク記念イベント
バルーンアート・フェスティバル
- グランシップ・オブ・フランク記念事業
中村絃子ピアノリサイタル

- プリンセス・エンクォー・バイ・ウィジョン
クラシック・サロン・シバとアライア
- グランシップ・静岡岡能

- ギリシャ国立劇場「メディア」
- ジャズ・ライヴⅠ「木住野佳子」
- 第30回日展・静岡展
- 文化講演会「池宮彰一郎」
- 文化の広場Ⅰ

- MOVING MUSIC EXPRESS



- ジャズ・ライヴⅡ「寺井尚子」

- 文化の広場Ⅱ

- 「グランボヤッジ」フェスティバル

- 文化講演会「ジェームス・三木」

- 英国女王陛下の近衛軍楽隊

- ミー・ジカル「結婚物語ーdoーdoー」

- しずおか連詩の会

- ジャズ・ライヴⅢ「ケイ・コリー」

- グランシップ・ミレニウム・ショーⅡ

山本「逆風の中でスタートして、3年間に300万人。県民の皆さんのあたたかさを感じますね」

日比野…まずは3周年を迎えられていかがですか。

山本…何よりも感じるのは、県民のあたたかさですね。というのは、「こんなデカイものををつくってどうするんだよ」と、心配半分、批判半分という、逆風の中でのスタートでしたから。景気もどん底で、果たしてどれ程の観客動員、使用効率が見込めるかと、我々も大分心配したんです。それがいざ蓋を開けてみると、最初の一年で120万人もの来館があり、全体の稼働率も70%だった。で、3年経てみると、来館者は300万人に達し、稼働率も現在71%と少しずつ右肩上がりになっているんです。こうした結果は、県民の皆さんがここを



*1 Sing 99/グランシップのプロモーション・アイデア・コンテストが開催され、ワークショップでは、グランプリ受賞の企画をもとに日比野氏が審査員各氏がポスターなどをライブで作成した。(99.10.2)

認めてくれた、そのあたたかさの証拠じゃないかと思ってるんですよ。また、スタッフについて言うと、スタート時の37、38名は県庁の職員が半分、プロと呼べるのはほんの一握りという、いわば素人集団だったんですね。それでも毎年40本前後もの自主企画事業をやってきて、振り返ってみると、文化の創造になる、何かを発信できるようなこと、しかもいいものを安い料金でやってこれたのではないかと。職員の昼夜を分かつた努力がそれなりの成果を生んだんじゃないかと思うんです。そして、忘れてならないのが、約150名のサポーターの人たち。当初からこれを公立文化施設におけるボランティア活動のモデルケースにしたいという高い理想はありましたが、全国的には失敗例もあり、危惧していたんです。ところがこれも非常にうまくいって、グランシップの活動自体、もうサポーター抜きには成

り立たない、そのぐらいのところまでできているんですね。日比野…こういう施設というのは、まず建物が注目されるじゃないですか。磯崎さんが設計されたこともあって、まず「箱」が話題になり、次に中身を危惧する。それはある意味で当然ですね。最初、大ホール天井の高さを見たときには、これまた凄いものができちゃったなと。(笑) そうですね、最初の『G』でグランシップをどう活用するかというコンテストをやりましたよね。結局、あの高さを利用したアイデアが採用されて。山本…地元の大学生の企画で、天井から光を雪のように降らせましたね。

日比野…『G』は単なる公募展じゃなくて、しかも、あの空間をどう使うかではなく、あの空間を使ってどうプロモーションしたらいいかという、一石二鳥のコンペだった。そんな風に草の根的に認知度を高めていこう

日比野

「最初、大ホールの天井の高さを見たときには、これまた凄いものができちゃったなと。(笑)」

- クラシックサロンⅡ「音楽とワイン」
- 音楽物語 スイミン「コンサート」
- Sing '99



100

●お正月広場

- ふじのくに新春コンサート
- 正月寄席 三遊亭楽太郎「宝井馬琴」
- ジャズ・ライヴⅣ「大西順子」
- クラシックサロンⅢ「バレタインコンサート」
- 高松宮妃のおひなさま展
- BS日本のうた

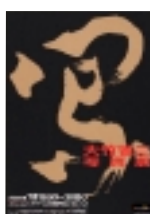
- ガーデニングフェスティバル
- 千ツルト・キツルト・千ツルト!
- 両洋の眼 2000展

- みんなく移動博物館
- グランボヤージュフェスティバル

- ジャズ・ライヴⅤ「国府弘子」
- トレインフェスタ 2000

- パロクオオヘフ・ドン・ジョヴァニ
- クラシックサロンⅣ「巴里祭にせて」

- 天功伝説
- 大竹省一写真展



- 能楽鑑賞教室
- 親と子のサイエンススクール
- ヨ・ヨ・マ・ミレニウムコンサート
- 日本フィル夏休みコンサート
- ジャズ・ライヴⅥ「城戸夕果」
- オペレッタ 天国と地獄
- グランシップ静岡能

日比野「文化といふのは、少しずつメタモルフォーゼして変容していくと、その土地らしくなるんですね」



Katsuhiko Hibino

日比野克彦 ひびのかつひこ

アーティスト。東京芸術大学大学院修了。国内外の個展、グループ展のほか、商業デザイン、舞台美術、パフォーマンスなど多岐に活躍。82年日本グラフィック展大賞、83年ADC賞、JACA展グランプリ受賞ほか、受賞歴多数。FIFA2002ワールドカップの日本のポスターも手掛ける。グランシップでは、開館以来、『SING』『ミレニウム・ジャーニー』などさまざまな企画に参加。

というところから、『Sing』が始まったんですね。

山本…去年、最優秀賞に選ばれた学生さんは、県外の方だったんですけど、日比野さんのこういう企画に対して、県外からも応募してくれるという、これは我々としても刺激になった。ここを若い才能がもっと集まる場にしていきたいなと思いますね。

日比野…彼女たちにしてみれば、たとえ海外でもチャンスがあれば、フットワーク軽く動く。そういうスタンスは、今の子どもたちはもっている。現在でも応募してくるのは、地元の子たちが圧倒的に多いけれど、去年の受賞者を見ると、東京や筑波など県外の人たちも増えてますよね。

山本…県内の専門学校の学生さんたちも喜んでくださっているし、これはもう継続する価値があるなと思います。

日比野…先生たちがうまくいって授業に利用してる、みたいなところもあるんですけどね。(笑)

山本…同じく毎年継続して行われているものに『連詩の会』*2というのがあ

ですが。



日比野…僕、一度見ましたよ。

山本…そうでしたね。大岡信さんを中心にこの秋4回目が行われるんですが、連詩というのは、文化の中でいえば本当に小さな領域で、ほとんどの人が知らないという、そういう文化ですけど、やってみるとこれが小さいなりにインパクトの強いものなんです。会では、毎回、外国の詩人の方をお招きしていて、昨年のゲストは北欧のサーツミという民族の方でした。ところがその方が帰国後、急死されてしまったんです。お話ししていても透明感を感じる方でしたが、連詩の中にも命というものを歌い続けていて。その方が亡くなったと聞いて、命が燃え尽きる前の最後のメッセージを聞いたような気がしました。

日比野…特別な縁みたいな

*2 連詩の会*2というのがあるん

●マリアセラフィーノの「カルメン」

●オーシャンカフェ①

●ヴァーティーズ

●ビバーインライヴコンサート

●2000年しずおか連詩の会

●Sing2000



●ロハート・キバ写真展

●オーシャンカフェ②

●ジャズ・ライヴⅦ「タイムファイブ」

●静岡県100年音楽祭

●クラシックサロンⅥ「愛を捧げる」

●クラシックサロンⅦ「茂木大輔と仲間たち」

●お正月広場

●「ニュー・コンサート」

●正月寄席「春風亭小朝」

●クラシックサロンⅧ「愛を捧げる」

●高松宮妃のおひなさま展

●ジャズ・ライヴⅣ「熱帯JAZZ楽団」

●オペラの国のアリア

●辻村寿三郎人形展



●ターシャ・ニューダーの世界展

●オーシャンカフェ③

●東京スカパラダイスオーケストラ

●江戸糸あやとり人形 結城座古典劇場

●スーパービッグフェスティバル2001

●家族 de ヒックラックコンサート

●みるコンサート 竹取物語

●トレインフェスタ2001

●ジャズ・ライヴⅤ「日野皓正」

山本「いまだ試行錯誤中。10年位経たないと、
本当に明確なものが出てこないという気がします」



Hajime Yamamoto

山本 肇 やまもと はじめ

グランシップ館長。京都大学法学部卒業後、NHK入局。報道局社会部記者、ニュースキャスター、スペシャル番組チーフプロデューサー、解説主幹、静岡放送局長などを務める。97年静岡県文化財団副理事長に就任。静岡市出身。

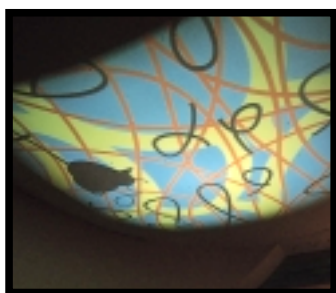
ものを感じてしまいますね。
山本「縁といえば、一昨年にはヨーヨー・マ^{*3}さんが来



てくれましたね。大ホールで新日本フィルと演奏してくださったんですが、大ホールというのは、もともと多目的につくられたもので、本当に音楽に向いているホールかというと、必ずしもそうじゃないですね。我々としてもそれなりに対策をとってきたものの、今一つ自信がなかった。けれど、リハーサルで弾いた彼が、これならPAを使わなくても大丈夫ですよ、と言ってくれたんです。我々もこれで、いわば二重丸がついたと思いましたが、やはり使わずにやりましたよ。うと。こうしたことが、今年から始まった静岡交響楽団のコンサートシリーズにつながってるんですけれど。日比野「施設って使わないと意味がないですよ。と

*3 ヨーヨー・マ・ミレニアムコンサート/県民の日記念公演として大ホール・海にて開催。聴衆を魅了した。公演前にはプレトーク^{*2}が行われた。(00.8.20)

はいえ、使うと汚れるし、壊れるし。だから、施設側は往々にして、これをしたら困る、あれも困る。でも、目的がちゃんとあるなら、ときにはイレギュラーなことも取り入れていくことで、使い方は変容していくと思うんですね。一時期、多目的ホールは無目的ホールで使にくいと言われていましたが、使にくいといいでしたら、全部使にくいんです。たとえば、最初の年にここ(3階ホワイエ・ロビー)でやりましたよね。山本「プロジェクトで天井に写し出す^{*4}という、あれは発見でしたね。



日比野「プロジェクト会社にしたら、上に当てるのは嫌なんです。新たな工夫が必要ですし。でも、モノを創る人は、人と同じことをしたくないというのがあって、過去の前例にないこと

*4 ミレニアムジャーニー「PROJECT FOR PROJECT」/日比野氏の原画32枚を天井に上映。古川聖氏も音楽で参加。絵と音の協奏システムをつくりあげた。(99.12.)

- 岩城宏之 オケストラアサザル金沢
- 「サーカス・コンサート」
- 「タイラック脚色・演出ハムレットの悲劇」



- 新世紀 スーパー雑技、ムーンキング
- いわさきちひろ展
- 納涼寄席
- ひびのこつゝ テロメライゼ 展
- 納涼寄席 林家木久蔵
- グランシップで夏遊び
- 親と子のサイエンススクール
- オシャンシアターサッカー放映
- ムービーシアター
- 生誕80周年 心の風景 山下清展
- One Heart, One World 世界ハト展
- オペラ・セウリヤの理髪師 全2幕



- My Dear Music Exchanges 2001
- ジャズライヴ・シネマ・イン・マリナ
- 能楽鑑賞教室
- 地域伝統芸能 全国フェスティバル
- 西洋名画への招待 モターン
- 平野啓子「語り」の世界ー羅生門ー
- 2001年しずおか連詩の会
- グレンミラー・オーケストラ Dance&Music
- Sing 2001
- グランシップ広場 空間プロデュース

をしたいとなると、必ず問題が起こるものなんです。そういうときにはいつも同じ線で引つ張るのではなく、いろんな線の引つ張り方をすること、空間の使い方は広がるし、管理してる側にもそれだけのデータが蓄積される。ましてヨーヨー・マの話のように、危惧してたことが実はそうでもなかった、なんてこともあるわけですから。クリエイターたちがやって来ることによって、グランシップも鍛えられるということもあると思いますね。あとはここをホームタウンとするスターが出現するといひですね。時間はかかると思いますが。

イ・アンド・エラーはまだ続いているという感じですね。職人が一人前になるのは10年かかるといわれますけど、10年位経たないと、本当に明確なものが出てこないという気がします。ただ、人を育てるということについては、今後ここがやらなければならぬことであるとは思っています。

しずつメタモルフォーゼしていつて、変容していくとその土地らしくなるんですね。ちよつと揺ると、座りがよくなるというのかな。

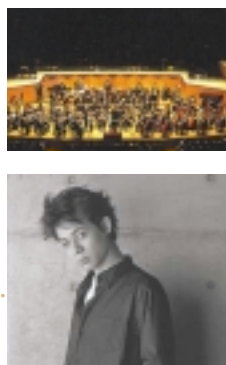
山本「去年の12月にグレンミラー楽団*5を呼んだんです。普通なら、演奏会をクリスマスに楽しむというだけなんです。大ホールをダンスホールにしたいと。大分渋りましたが、結果的にはOKになり、当日は千何百人もが大ホールで踊りまくったんです。で、終わると、楽団長も素晴らしかった、ワンダフルだと。こちらの主體的なアイデアで、たとえば招聘事業でもカタチは変えられる。その面白さを感じ

日比野「でも、あつて揺さぶってくれるから、何かが生まれるんです」



*5 グレンミラー・オーケストラ/大ホールが1950年代のダンスホールに。世代を超えて愛される名曲をダンスと共に楽しんだ。(01.12.5.)

●グランシップ&静岡ガクランシックス
干ッアルとサリエリを楽しむタベ
●N響コンサート・グランシップ開館3周年記念



●ジャズライブX「TOKU」
●スライムシガイズクリューズ「サイト」
●新世紀「サイト」

102

●グランシップ開館3周年記念事業
美し静岡の魅力第1回写真コンテスト 入賞作品展
●お正月広場

●グランシップ開館3周年記念事業
「こーいヤー」コンサート
●正月寄席「橘家円蔵」

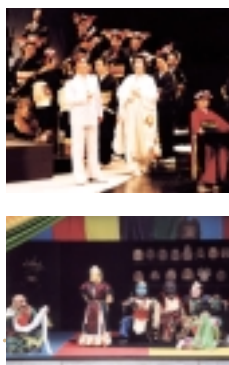
●グランシップ静岡開館

●高松宮妃のおひなさま展

●ルカステアイトワイオリンコンサート

●ジャズライブX「TOKU」

●第1回県民オペラ「蝶々夫人」



●グランシップ開館3周年記念事業
わんぱく2002

●野村万之丞の真伎楽

●「グランドシップ」静響コンサートシリーズvol.1

●創画展・静岡展

●写真展NY9/11

●スパードッグ・フェスティバル02

●トレインフェスタ2002

●ジャズライブX「akiko」

●クリスマスティーパーティー・キッズ合展



山本「私はいつも充足度と満足度という、ややユアンスの違う、二つのものさしを持っていただきたいと思います」

り文化の発信も大事だし、じゃあ、下水道だけあれば、それで人間豊かになるかという、そうでもない。この間、千葉のニュータウンに行ってきたんですけど、東急が駅を引っ張ってきて、駅前に病院や学校、商店街があつて、並木や公園があつて、同じような家が並んでという、何の不自由もない街なんだけど、出来事も起こらないというんです。なぜなら街に怪しさが無い、生活している人たちにギャップがないんですね。ライフラインが整備されていることも大事だけど、文化的ギャップがないと精神的には満足でき

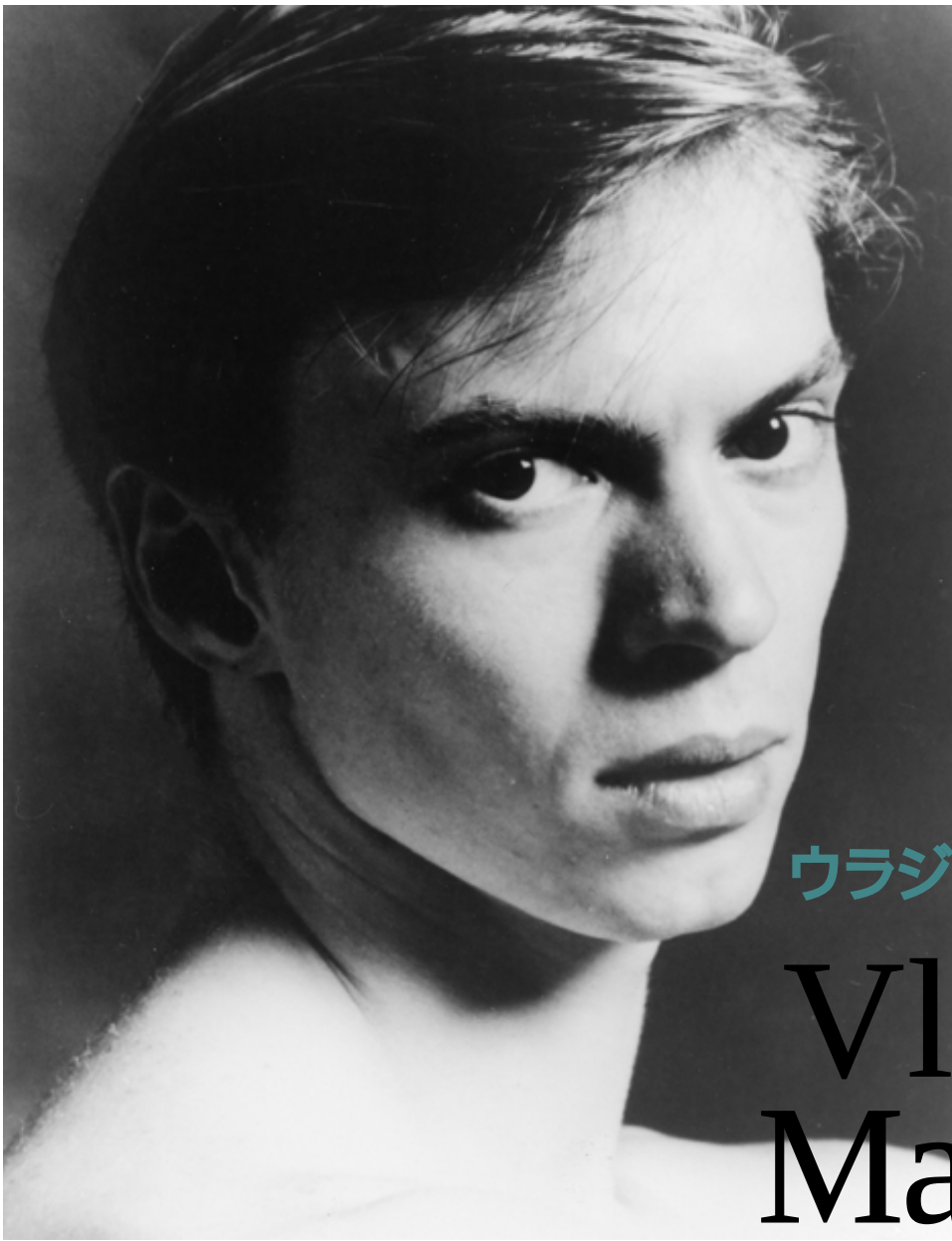
ない。僕が見る静岡は、温暖で生活しやすく、のんびりしてる。で、グランシップがないんだけど、誰も不自由しないんだけど、あつて揺さぶつてくれるから、何かが生まれる。そういう評価もあつてしかるべきだと思います。山本…回転率とか効率とか人数とか、それは一つのものさしとして仕方がない。ただ、もう一つ別のものさしも持っていてくださいと、いつも私は言うんです。充足度と満足度という、ややユアンスの違う、二つのものさしを持っていただきたい。まあ、我々としては、ひたすらいいものを安い料金で提

供する、文化的な発信を続けるだけなんです。翻つて、それが税金の一番いい使い方になるのも思ってるんです。また、グランシップは一つの建物ですが、ここを管理しているのは、静岡県文化財団という団体なんです。で、財団の役割としては、単にここだけでやればいいというものではないんです。外に出て活動するという、これを最近はずっとリーチというらしいんですけど。ここでやったいいものをどう外へ持っていけるか。地域の文化をどう育ていけるかと。それが今後の戦略として必要になってくる

と思うんです。そのためには、予算の仕組みやシステムを変えていかなければならないんですけど。日比野…変化というのは、大いに望むところでもある。ただ、変化するときには大事なのをちゃんと渡しながら、ステップアップできるかどうかですね。10年、20年続けていく間に、そういうタイミングが幾つかあるといいですね。そして、そういうときににお力になればと思っていますが。山本…それは心強い。ぜひ、よろしく願います。日比野…グランシップの今後にますます期待しています。



美しき、楽しき
バレエの世界へ。



グランシップで会える
優美なバレエ貴公子。

ウラジーミル・マラーホフ

Vladimir Malakhov

ウラジーミル・マラーホフ

地元サークルから78年ポリショイバレエ学校に入学。86年モスクワ・クラシック・バレエにソリストとして入団。92年ウィーン国立歌劇場バレエのファーストソリストに。94年オーストリア国籍取得。その後、カナダ・ナショナルバレエ、アメリカン・バレエ・シアター、シュットガルト・バレエにゲスト・プリンシパルに。89年モスクワ国際バレエコンクールバ・ド・ドゥ部門男性金賞、セルジュ・リファール賞、00年ダンス・オブ・ザ・イヤーほか多数受賞。振付師としても活躍。1968年ウクライナ生まれ。

彼の才能こそ、神の贈り物。
「マラーホフの贈り物」

ウラジーミル・マラーホフが初めて来日したのは、17年前。当時、彼はまだモスクワのポリショイバレエ学校の生徒だった。にもかかわらず、人々はその天賦の才に驚嘆し、強く惹かれた。そうした所以から、彼の才能を誰よりも早く見出したのは日本のバレエファンだったともいわれている。以来、来日公演を重ね、今やマラーホフは、日本で最も愛されるダンサーの一人となった。

貴公子然とした風貌、軽やかでしなやかな身体の動き、深い表現力。天才ダンサー、マラーホフには、匂い立つ気品がある。今秋のベルリン国立歌劇場バレエ団の芸術監督就任も決まり、さらに多忙を極める彼だが、そうした中でも、特別な感謝の念をもって日本のファンのために組むプログラ

ムそれが「マラーホフの贈り物」である。マラーホフ自身が選んだダンサーとのこのグループ公演も、回を重ねて今回で3回目となった。彼の相手役を務めるのはおなじみアメリカン・バレエ・シアターのミューズ・ジュリー・ケント。昨年「ジゼル」でのベストパートナーぶりも記憶に新しいところ。細身でエレガントな肢体、ロマンティックな容姿、繊細なドラマ性をもつ彼女と、貴公子マラーホフとのデュエットは、神々しい双子と称されるほどの美しさだ。さらにポリショイ劇場バレエの美貌の新鋭スウェトラー・ナ・ルンキナや、フィンランド国立バレエのバルボラ・コホウトコアといった若きプリマの出演も話題。カリスマ性を増したサンフランシスコ・バレエのルシア・ラカッラにも注目したい。

What a wonderful ballet!

拍手のタイミング。

見せ場で拍手、が基本。女性ならフエッ、片足で鞭打つ様な動きやパランス、男性なら回転やジャンプが素晴らしいとき。わからない場合は周囲に合わせて。主役がお辞儀をした際にも拍手するのは当然のマナー。

感動したら、「ブラボー！」

オペラなどでは、女性と男性では叫ぶ言葉も違うこともあるが、バレエでは「ブラボー！」でOK。これも拍手と同様タイミングが大切。間違ってもアイドルのステージのように名前を叫んだりしないように。

拍手が続くカーテンコール。

カーテンコールの間は、拍手し続けるのがマナー。ただ、コサートのように入アンコールなどは滅多にないが、まれにジャンプなどのサービスも。帰宅を急ぐ場合などはこの間に退出してもマナー違反ではない。



上 '96年の「マラーホフの贈り物」より。日本のファンのためだけに組まれた贅沢なプログラムで、今回も期待必至。

左 「ジゼル」より。" 神々しい双子 "と称されるジュリー・ケントとのペア。「マラーホフの〜」では「レ・シルフィード」などで再共演。

下右 マラーホフの魅力は、なんといっても軽やかでしなやかな身体の動きだ。

イタリアで生まれ、フランスで花開いた、「バレエ」なるもの。

踊り手のしなやかさを
客席で疑似体験する。

バレエ用語の大半はフランス語であることから、バレエはフランス生まれの芸術であると思われている人も多いかもしれない。しかし、バレエとは元来、踊る「踊り」という意のイタリア語、バッラーレ (balletto) (ballet) (ballet) からなり、中世

イタリアの貴族の館で行われていた舞踏会がそのルーツであるとされている。その後、ルネサンス期にフランスに渡り、バレエ (ballet) と縮まったとの説が一般的だ。

台詞のない舞台芸術であるバレエにおいて、感情の揺れはすべて踊りとマイムで表現される。プリマが片手を胸に添えれば、「私」を意味し、その手を伸ばした相手が「あなた」。

頭の上で手を回すマイムもよく見られるが、これは「踊りまじょう」の意を表している。つまり、動きつつが言葉なのだ。そして、この言葉なき言葉がわかるようになれば、バレエはますます面白い。

バレエを鑑賞するスタイルは、人それぞれである。プログラムやダンサーによっても鑑賞の目的は異なるだろうが、レギナークラスなら、まずは物語の主人公と自分を重ね合わせて、動きやテクニクを楽しむことから始めてみよう。踊り手のしなやかさ、軽やかさが疑似体験できると、バレエはかなり楽しい。一方、今回の「マラーホフの〜」のように、この物語ではなく、バリエイ豊かな演目の場合は、それぞれの踊り手の繊細な線、個を見出すという楽しみもある。ドガの名作「踊り子」シリーズではないが、しなやかな身体から生み出される、優雅で流麗なパフォーマンス、アラバスクなどのポーズ、つづきは美しい彫刻やフレスコ画を観る喜びに等しい。

静岡県として、聴衆を育てる努力も。

鈴木織衛(指揮者)

3月10日上演の第1回県民オペラ、蝶々夫人に指揮者として参加

地方におけるオペラづくりには、昔から二つの問題があつて、ハード、つまり会場の問題と、ソフトである音楽家の力量の問題と。後者はここ十年ほどの間に随分伸びてきたんですが、前者は依然として難しい問題だったんです。その点、今回の県民オペラでは練習の時からグランシップが使えたから、ハードのおさえ方としては理想的でした。会場となつた

中ホールも、袖が狭いなどオペラにとって万事最高とまでは言いにくいけれど、それを差し置いても、いいホールだと思ひました。だから、どんどん使わなければもったいない。チケットも早々に完売したぐらいですから、それなら一回公演してもよかったですね。それぐらいの力はみんな持っているんです。公演そのものについても、皆さん素晴らしいと云うてくださいますね。

ましたが、今回、僕はそういういい評価しか聞いていないんですよ。でも、そんなはずがない。いいものを上演するのが音楽家の責任なら、モノの価値がわかり、正しい判断をし、悪いところもちゃんと見つけていくのは聴衆の責任です。もしも今後、静岡県が文化的なものの代表として音楽を掲げていくなら、聴衆を育てる、それもまた必要なことだと思います。

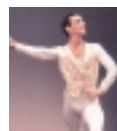
Julie Kent
ジュリー・ケント



Lucia Lacarra
ルシア・ラカッタ
Cyril Pierre
シリル・ピエール



Parrish Maynard
パリッシュ・メイナード



グランシップ開館3周年記念事業
A Gift from Malakhov

マラーホフの贈り物

7/21 PM5:30開場
PM6:00開演

グランシップ中ホール・大地

全席指定 S席 12,000円

税込 A席 9,000円

B席 6,000円

チケット
発売中

主催 / (財)静岡県文化財団
共催 / 静岡朝日テレビ
後援 / 静岡県、静岡県教育委員会

Barbora Kohoutkova
マルボラ・コホウトコヴァ



Sergei Filin
セルゲイ・フィーリン



Svetlana Lunkina
スベトラナ・ルンキナ



プログラム Program

第1部

「グラン・バ・クラシック」
ジュリー・ケント
ウラジーミル・マラーホフ
音楽:ダニエル・オーベール
振付:ヴィクトール・グノフスキー

「ライト・レイン」
ルシア・ラカッタ シリル・ピエール
音楽:ダグ・アダムズ
振付:ジェラルド・アルビノ

「チャイコフスキー・バ・ド・ドゥ」
パルボラ・コホウトコヴァ
パリッシュ・メイナード
音楽:ピョートル・I・チャイコフスキー
振付:ジョージ・バランシーン

「ファラオの娘」よりバ・ド・ドゥ
スヴェトラナ・ルンキナ
セルゲイ・フィーリン
音楽:チェザレ・ブーニ
振付:ピエール・ラコト

第2部

「レ・シルフィード」
ジュリー・ケント
ウラジーミル・マラーホフ
東京バレエ団
音楽:フレデリック・ショパン
振付:ミハイル・フォーキン

第3部

「眠れる森の美女」よりバ・ド・ドゥ
パルボラ・コホウトコヴァ
パリッシュ・メイナード
音楽:ピョートル・I・チャイコフスキー
振付:マリウス・プティパ

「弦楽のためのアダージェ」
ルシア・ラカッタ シリル・ピエール
音楽:サミュエル・バーバー
振付:ジェラルド・ボバ

「ドン・キホーテ」よりバ・ド・ドゥ
スヴェトラナ・ルンキナ
セルゲイ・フィーリン
音楽:ルードヴィヒ・ミンクス
振付:マリウス・プティパ

「コート」
ウラジーミル・マラーホフ
音楽:ロバート・フリップ
振付:デイヴィッド・パーソンズ

「フィナーレ」
ウラジーミル・マラーホフほかゲスト全員
振付:ウラジーミル・マラーホフ

バレエ用語解説

【プリマ・バレリーナ】

主役を専門に踊る女性ダンサー。
バレエ団の序列では、最高位にあたる。

【ダンスール・ノーブル】

男性の主役。

【プリンシパル】

主役を踊るバレエダンサーで、男女の区別はなく、英語圏で使われる。

【コール・ド・バレエ】

群舞で踊る人たち。

【バ・ド・ドゥ】

男女二人組による踊り。男女の主役ダンサーの場合は、とくに「グラン・バ・ド・ドゥ」という。

【ヴァリエーション】

一人踊りのこと。

【アダージェ】

女性が男性に支えられ、ゆったり踊るパート。

【ソリスト】

役をもらって踊る人。

【ボワント】

トゥシューズ。またはつま先で立つこと。

【レヴェランス】

降幕後、またはレッスンの前後のおしげ。

【コレオグラファー】

舞踊作家、振付師のこと。

【アティチュード】

片足で立ち、反対の足の膝を曲げ、宙で保つポーズ。

【アラベスク】

片足で立ち、反対の足を後ろにまっすぐ伸ばしたポーズ。

【バレエ・ブラン】

白いロマンティック・チュチュを着て踊るバレエ作品。

東儀秀樹

細胞で聴く、音楽。

「雅楽は、かなり熟考されたものなんです。それは音楽的な完成度だけでなく、

宇宙観、天文学に合致する部分があったり、人間の生理に合う音の配列であったり。

耳で聴くというより、身体で聴く、

細胞単位で聴く音楽であると考えられるんです」

神仙に捧げるといふこと。

ある一つの観点から見れば異端であり、別の観点から見れば生粋この上ない。氏について、雅楽が生まれた頃の言葉で語るならば、「さやけくたをやかなるひと」。すなわち凛と澄み、しなやかな精神と術を持つ人。雅楽なるものに敬意をもって純粋に身を寄せ、五感を澄ましながらも、決して抗うことなく、なお自由でいられる。そうした心持ちこそが才。さまざまな感覚を満々と細胞に湛える氏ならではのものである。

——東儀家といえば、聖徳太子の頃よりの
樂家でいらっしゃいますが、雅樂の道を選ば
れるまでには紆余曲折あったとうかがって
います。

「父親がクラシック、母親が映画音楽やポ
ピュラーが好きだったりして、そういうも
のがいつも家で流れていたんです。アメリカ
人の友達の影響で、幼稚園の頃からビート
ルズに憧れて、中学・高校とバンドでロック
色の強いものをやりながらも、時々パツハ
を聴いたり、音楽的にはかなり多様でし
たね。それでも将来的にはロックやジャズ
といった洋楽の道に進むということは漠然
と決めていたんです。が、それを周囲に話
したところ、心配しまして。そこまで音楽
にこだわるのなら、雅樂の道はどうかと。
ロックやジャズに夢中になっているときに、
雅樂といわれても正直、親近感はわかない
けれど、家が二三〇〇年もの間、雅樂を
伝えてきた家であるということは認識して
いたし、海外での暮らしの中で日本の文化
を大切にしたいという意識は、小学生の頃
からあったんです。しかし、それでもやは
りロックやジャズを選んだという思いも
あって、その確信をつかむためにも、今こ
こで雅樂をやらなければと思ったんです。
雅樂をきちんと理解し、吸収してから判
断すれば、誰も文句は言わないだろうと。
結局、宮内庁の楽部で七年間の修行に入
るんですけど、入ったらもはやロックが
どうの、雅樂がどうのという決断はどうで
もよくなってしまいましたね。従順に雅樂
に身を置いて、気がついたら、雅樂にどつ

り浸かっていたという状況です」

——そんな東儀さんならではの言葉で緋く
と、雅樂とはどのような音楽なのでしょう。

「雅樂というのは、飛鳥時代以前にシルク
ロードのさまざまな場所で生まれたもの
が日本に結集し、日本固有の音楽と融合
して、試行錯誤の末、平安時代に誕生して
いるんです。歴史の中で失われた楽器や芸
能は多くあるけれど、その中で神仏に捧げ
るのにふさわしい完成度に突きつめられ、
それも一代だけでなく、何代にも亘って、
つまり百年以上の長さをもつて完成度が高
められていったものというのは、他にない。
したがって雅樂はかなり熟考されたものな
んですよ。しかもそれは音楽的な完成度の
ための熟考だけではなくて、というよりも、
音楽的な完成度を求めたらイコールそう
なっていたんだと思うんですけども、宇
宙観や天文学に合致する部分があったり、
音の配列などが人間の生理に合うように
考えられていたり。昔の人は科学以前の五感
の力というものが鋭かったから、それをフル
活用したときには、あとで科学や天文学で
証明できるほどの一致感を自然に醸し出す
ことができたんだろうなと思うんです。耳で
聴くというよりも、身体で感じてしまう。
僕はよく言うんですけど、細胞が聴いている、
細胞単位で聴く音楽が古典雅樂であると
考えられるんですよ」

音と音の間の“ゆらぎ”。

——雅樂の譜面を見ますと、そこには音の



笑しよ



雅樂 ひちりき

平安の頃は、感覚が最大限の武器だった。「陰陽師が政治を動かす時代ですからね。そういうことに準じて謀るのが、実は一番いいことなのかもしれないとも思っているんです。ただ、ちゃんと使える人がいないから、使わない方がましなだけけど」

順番だけが記されていて、リズムや早さにつ
いては記録がないんですね。

「基本的には、雅樂は口伝(くでん)といって
口で伝えていくんです。ですから、メロディを
まず歌う。何ヶ月も楽器を持たせてもらえ
ずに、師匠がするのを真似して、まずメロディ
を頭で、身体で覚える。楽器を使う際には、
テクニクに気を取られて、間の取り方が疎
かになってしまいますよね。ですから、まず
は例えば箏(ひちりき)なら箏を吹い
ている気持ちになって歌うという、いちばん
簡単な音楽表現として習得するわけです」
——口伝であることによって、歴史のどこか
で変化したということは考えられませんか。
そうした痕跡を曲の中に見つけたりするこ
とはないのでしょうか。

「むしろ変化していない証拠をつかんでいると
いえますね。雅樂の習得にどつぶり身を寄
せていると、この方法ならば変わるはずがな
いと身をもつて確信できるんですよ。たとえ
ば、神饌(しんけん)といって、神社などでお米やお酒を
捧げるとき、自分の息がかからないよう高
く掲げて渡しますよね。それと同じように、
音楽・芸能として神や仏に捧げるというこ
とは、そこに演奏者の自我を入れるなど
失礼なことで、完成されたものをそのまま
手渡しすることに全神経を注ぐわけです。
一語でも間違えたら、振り出しに戻って最
初からやり直すという、そういう稽古です
から、あの曲のあそこがどうだったかとい
うことはなくて、あの曲のあそこといえば、
身体がもう自然に醸し出してしまふ。それ
ぐらいの訓練が雅樂の訓練なんです」



源氏物語の時代の音世界は、今とは遙かに違う。「枯れ葉が地面に落ちる音だけでなく、風に舞う音すら聞こえたかもしれない。その中でできた音楽となれば、精密度はものすごく高いだろうと思いますね」

【とうぎひでき】

雅楽師。1959年奈良時代より雅楽を世襲する東儀家に生まれる。商社勤務の父の仕事の関係で、幼少期をタイやメキシコで過ごす。高校卒業後、宮内庁式部職楽部にて雅楽を学び、86年楽師となる。楽部では箏箏を主に、琵琶、歌、舞、チェロを担当。宮中儀式や皇居での演奏会、海外公演などに参加の傍ら、ピアノやシンセサイザー、コンピュータを駆使して、オリジナル曲の創作にも情熱を傾け、96年にアルバム「東儀秀樹」でデビュー。同年、宮内庁を辞めて、ソロ活動を始める。テレビ番組やCM、舞台などにおいて独特の音楽空間を広げ、今年3月にもアジアの最先端音楽を集めたコンピレーションアルバム「New ASIA」をリリース。また、9/4にニューアルバムをリリース予定。それに伴い、全国ツアー「I am with you」24公演が予定されている。(問い合わせ:東京音協03-3201-8116) CMや映画にも主演するなど、多岐に活躍中。

ホームページ
<http://www.toshiba-emi.co.jp/togi/>

「それはもうおやりになった方にしかつかめない確信ですね。」

「誰もがそんなはずはないだろう、書き記さないものは変わるに決まってるじゃないかというんです。でも、書けない部分は無理に書かない方がいいんです。たとえば、音と音の間の筆算なりの「ゆらぎ」とか、ちよつと下がってから上にいくというのは、五線紙に書けない。五線紙に書いた途端にそれは直線になってしまふんです。ドとソの間のカーブというのは、もう耳や身体に染み込ませるしか伝えようがないというのがあるから、この手法が残ったんでしうね。だから、今、僕らが古典の雅楽を演奏するとき、それは平安時代の、たとえば紫式部も聴いたものとまったく同じもの、その再現であると胸を張つていえるんです」

「雅楽と洋楽との間を自由に引き来できる感覚は、クラシックの方がロックをやったり、三味線でジャズを弾くなどといったレベルを遙かに超えていると思うのですが。」

「表現方法としては、音をコントロールするだけじゃないかと思つてゐるんです。どんな楽器でも、身体が望んでいる表現というのが、身体から沸き上がつて来るだけで、たとえば、僕のオリジナルというのは、結果から見ると、東洋のものと西洋のものが融合していたり、古いものと新しいものの融合になっていたりするんだけど、人のやつていないものとして、それを狙つたことは一つもないんですよ。人に聴かせるというよりも、本当に自分が聞きたい音楽、楽しみたい音楽をまず楽しみたい。それでふつと現れたのがこの音楽

だったわけです。洋楽は独学ですが、音の理論などは雅楽と洋楽とはほとんど変わらないんですよ。だからというんじゃないですけど、あとはもう自分の感覚を自分で信じているだけ。自然に手に触れようと思つて、手が動いてしまったものだけを信じているだけですね。自然に流れているものが、人にも自然にとどくだろうと思つてゐるんです」

「今秋、グランシップで行われる源氏物語をテーマとしたステージでは、演奏とともに舞いも披露いただけると思いますが。」

「光源氏という人物は、ものすごく繊細で、好奇心が旺盛で、しかもいろんなことが許される立場だったから、いきいきとしている。普通はいきいきとした部分がほとんど粗野になつて、単なるワンマンにやりたい放題の馬鹿男になつてしまふのだけれど、彼は繊細だった。そこがキーポイントだと思うんですよ。音楽に長けていて、歌詠などといった、そういう発想も豊かで、それだけだと鼻持ちならないんだけど、自分で自分を繊細にコントロールするすべまでも持つていたという。まあ、架空の人物だから、そうなんだろうけど。それが筆者の望みでもあり、読む人の望みでもあったんだろうな。で、こういった話をスタッフと話しているだけで、僕にはもう音楽が聞こえてたりするんですよ。一人で音楽的な空想に耽る、この時間が実はすごく楽しいですね。さらに次の段階として、一つの形、イメージに近づけていくという作業もまた楽しい。無だつたものが有になつて、育っていくという過程がドキドキするくらい楽しいんです」



7/28日チケット発売

10/27日

光源氏・さかさまに行かぬ年月よ
～美しき男たちの「源氏音かたり」～

昼の部／PM1:00開場 PM1:30開演

夜の部／PM6:00開場 PM6:30開演

中ホール・大地

全席指定 S席 8,000円 A席 6,000円 (税込)

【出演】東儀秀樹(雅楽)、古澤巖(ヴァイオリン)、橋爪淳(語り)、
塩谷 哲(ピアノ)、平尾憲嗣(テノール)、小川珊鶴(挿花)